大阪都市文化研究会会報　第 177 号

2010 年 10 月 - Oct 2010
Tobunken News Letter from Urban Culture & Folklore Society of OSAKA

（　■：都文研主催行事　□：外部主催行事　）

お知らせ　information

■定例ウォッチング　市岡界隈原風景を探る

日　時：10 月 23 日(土) 午後２時
集　合：ＪＲ環状線弁天町駅南口改札前

＜立ち寄り予定＞

① JR・地下鉄弁天町駅
② 交通科学博物館
③ 市岡新田会所跡（波除公園）
④ 波除山跡（弁天東公園）
⑤ 弁天埠頭。
⑥ 三社神社
⑦ 磯路三丁目桜通
⑧ 夕凪
⑨ 市岡パラダイス跡
⑩ JR 臨港貨物線跡
⑪ 甚兵衛渡
⑬ 市岡ビール工房
⑭ 市岡高校

※ ビジター歓迎。ご家族、ご友人お誘い合わせてご参加ください。
※ なるべく事前の参加表明をお願いします。

□インターシティ研究会
２０１０年秋のワークショップ

今回は大阪大学大学院工学研究科の新田保次教授による「持続可能な都市交通戦略・まちづくりと自転車」です。高齢化・少子化社会を見据えたまちづくりと交通戦略、サイクルタウン構想などについて共に考えましょう。

万事お繰り合わせの上、ご参加いただきますようにご案内申し上げます。ご参加の方は、事務局宛にご連絡いただきますようにお願いします。（本メールの返信で結構です）

日　時：11 月 10 日(水) 午後７時～９時
会　場：エルおおさか(大阪府立労働センター)
７階 707 号室

京阪・地下鉄天満橋駅下車　土佐堀通を西へ徒歩数分

内　容：「持続可能な都市交通戦略・まちづくりと自転車」
講　師：新田保次さん
（大阪大学大学院工学研究科教授）
講演とディスカッション

参加費：会員無料。非会員は￥1,000
参加ご希望の方は、事務局までお申し込みをお願いします。
お申込み方法：
電話・ファックス：075-771-6361
メール：GZL05313@nifty.ne.jp
辻野まで

■都文研ホームページ再開しています

昨年の geocities（米）のサービス終了とともに休止となっていた当会のホームページが、新たなサイトで再開しています。

URL：http://tobunken.jimdo.com/

対外告知などに多少なりとも効果を期待しつつ、ウォッチングのお知らせなどを掲載してゆきたい考えです。

写真投稿や併設のブログなど、書込み歓迎です。事務局に更新を依頼されてもかまわないですが、希望者へは独自に操作できるようログインパスワードを開示しますのでお申し出ください。

報　告　Report

■ 春の歩く会　播磨の港めぐり、飾磨・妻鹿

催行日：２０１０年４月２９日（木）

飾磨という古い地名の町の駅に降り、様々な感想の残った一日でした。

おそらくは江戸期の賑わいのあと、明治中期に山

陽本線がずっと内陸地を走ったため、今の山陽電鉄が出来た時の喜びは大層なものだったのではないか。

以前訪れた網干、また今回訪ねた隣の妻鹿という漁村のようで漁村でない、古めかしい町にもそれを感じました。

飾磨港の開発、山陽特殊鋼や新日鉄広畑の誘致から工場の生産が本格化するまでの勢いを想像するに、男っぽい町だなと感じました。
その後は割と風任せ人任せみたいな所もあるのでしょうか。
ジャスコが移転した後のゴーストタウン状態の駅近所の市場には吃驚。
それから今のジャスコ姫路リバーシティの土地は国鉄飾磨駅と敷島紡績の工場跡らしいです。

1993 年開業だそうですから、駅前タウンの死刑宣告は震災の２年前。
でもバブルの余韻もあって「なんとかなるさ」と思ってたのかも。
山陽の駅も「うちもまだなんとか」と考えていたのかも。

このエレベーターかジェットコースターのような激しい上下の幅には只只、浜っ子気質とでもいうのか、流石です。
お宮を地域のシンボルとして激しいエネルギーをほとばせる。
帰宅後、ユーチューブで「けんか祭り」の映像を見ました。

特にあのご臨終のような（失礼）妻鹿の町からは想像はできません。

床屋の謎も残りました。
どうも地場のコミュニティー、情報網なのではないか。
廃れていますが銭湯マニアのサイトもかすっていました。飾磨、妻鹿とも。
　船乗り体質で昼は男衆は寝ていて、夜になったらごんたする。
　そんなとこもあるのかもしれませんね。

　ガチ渋い場所の選択、慧眼に感服いたしております。

【弘津小太郎 会員】

飾磨・妻鹿大変楽しかった。廃線跡あり，クリーニング屋と理容業は，組織化の程度高く，勝手に休めない模様（政治学的説明）。

mixi アプリの旅行マップをきちんと作っているのですが（訪問地・入った飲食店・滞在したホテル・宿を記録），高砂市の「木曽路」を登録しようとして，地図見てたら，高砂市の地名おもしろい。１つは，猟師町，鍛冶屋町など，職域地名が残っているので，古い町と思われること。もう一つは，合併の影響。おそらく昭和の合併で，高砂市ができたのでしょうが。高砂市＋（合併前の自治体）町＋町名と三重構造になっています。高砂市高砂町木曽町というのがあります。打ち上げに入った，木曽路と関係あるかも。

にくてんは初めて。粉もんにジャガイモもおもしろい。

【柏原誠 会員】

奈良から播磨国は遠い、新幹線を使えばすぐだろうが交通費を節約するためには山陽電鉄でゆっくり行かねばならぬ。

１．明石から西は住宅が密接せずゆったりと繋がる。田園風景でもなく、市街でもなく・・・・遠くの臨海部に装置産業の大工場の煙突群が見える。

２．飾磨駅はけったいな構造だった。昼食を取るために時間を見て駅に着いたが、ホームを越える陸橋を降りて改札口だがなんかヘン、改札口の向こうに駅舎があってその向こうに街が見えるという構造ではない。改札正面には今降りたホームとそのさらに向こうには駅前広場らしきものが見える。正面に進めないから左右を見ると右は工事中のような通路、こっちへ行く人が多い。左は駅ビル商店の気配。食堂探しだから、左へ。

　ほとんど閉まっていて「王将」のみ開店。極小ロータリーでタクシーが待っているのでここが駅前に間違いないが、けったいな駅だ。
ぐるっと一周するも格好の食堂はなく、　「王将」で腹ごしらえ。
　これが老夫婦二人で営業の「王将」らしからぬお店、消費税も外税のこだわり。
一軒大衆食堂ののれんがあったが、入るのに勇気がいったので遠慮。
　森口氏によれば、改編されたらしいが、北側に改札でも良いのに奇妙だ。

３．飾磨の町、明解な印象を持てない。港町にしては、倉庫街や荷役施設もなく産業港ではなくなっている。小豆島、家島へのフェリーは発着していて旅客はそれなりにはいた。埋め立て地は、大工場と空っぽの公園、人影はほとんどない。

４．旧市街の方は、昭和期そのまま、あるいは昭和前期の町並み。近世の港湾施設の堀がかなり残っている。小河口港湾の感じである。古い民家もあるがあまり繋がっていないので景観的には、楽しくはない。

５．旧国鉄時代のヤードが公共用地になって広々とした施設、人影があまりない。

６．えびす神社に天満宮が多い。網敷天神像があって、大阪の網敷天神を思い出して、結局、網敷も網敷も地面に腰を下ろさぬ（地下ジゲではない）貴族意識の表明かと思った。

７．新日鉄広畑への引き込み線の線路跡、さらには鉄橋が残っていて、これがある種のノスタルジア！　関西線、今の新今宮駅あたりの土手のＳＬを思い出す。都会なら遊歩道になるが、遊歩道がいらない空間だ。

８．駅北のジャスコ跡地、商店街というのでのぞいたら底が浅くてドン詰まり！
　歩いて入ったら正面がジャスコの本体で、その前にできた新設商店街。駐車はあるが、大規模用地が誕生してジャスコが移転、廃墟となる。ショッピングセンター風市場も二ヶ所あったが、いずれも閉店、新設ジャスコの一元化していた。

９．妻鹿の村は、漁村と言うことだが市川沿いにそれらしい施設は見えず、狭い地域にやたらとお堂のような「公民館」と更地が多かった。

【伊藤和雄　会員】

一応、私が企画者だったのですが、資料は地元の海運会社ＨＰの史跡マップのみで、全く行き当たりばったりのコースでした。しかし、手前味噌ながら、その程度の準備の割には興味深い町歩きができたと感じています。いわゆる港町の風情という観光的な呼び文句は、飾磨にはあまりはまらないと思うのですが、港湾地区として地道に機能している印象を受けました。古い漁村の町並みの妻鹿との対比も面白かったと思います。

昨秋の歩く会は神戸長田で漁港にも寄りましたが、今後、大阪湾・播磨灘の港で、これまでに行っていない所を訪ねてゆくという企画はいかがでしょうか。

【鷲原知良　会員】

【参加者】伊藤・柏原・濱名・弘津・森口・鷲原

■ 定例ウォッチング　浜寺・高師浜と高石漁港
ー港めぐりシリーズ（その２）

催行日：２０１０年５月２２日（土）

　何とか雨に遭わないですんだ昨日、羽衣から高石漁港、浜寺昭和町、諏訪ノ森駅まで歩きました。

　年寄りの思い出話から

　１．旧国道二十六号線は思いで深い。実家が西成のこの国道沿いにあり、自動車部分品の販売であったから親父が仕事休みの夏には、海水浴に和歌山までよく通りました。その記憶がある。

　２．もう一つは八尾高教員時代、バドミントン大会で臨海スポーツセンターによく通った。ある年などもう一人うまいのがいたらインターハイ団体戦に出場できた。五月の連休中、決勝戦は夜の八時ぐらいになっていた。

　と言うわけで、羽衣駅で降りて旧国道二十六号線の歩道を歩く。杉板で土壁を覆った帝塚山風日本家屋も健在。
　「ほんみち」教団本部も健在、むかしは歩道に長々と屏が続いていたが、今は後退して駐車スペースを確保。この教団戦前は現近鉄永和駅にあった宗教団体でＰＬ教団の母体と観念していたが、間違いであった。現・永和駅にあったのは「ひとのみち」教団で、これはＰＬに関連する。「ほんみち」は天理教団関連らしい。どうりで建物が日本瓦。

　三時に余裕があったので「臨海スポーツセンター」へ、私にとっての往年のバドミントン激戦地はアイススケートのメッカ。
　華奢な女の子がたくさん、滑走前のトレイニングに余念がない。海水浴場を埋め立てて、その補償にプールを作り体育館を作った大阪府、プールはもうない。浜寺水練学校はどこに行ったやら・・・・このあたり高師浜の住宅地、南北道がまっすぐ走りなかなかの宅地開発、邸宅が世代交代でミニ開発になっているが、それでも独立した余裕ある空間だ。
　臨海スポーツセンターの北側が高石漁港、漁協や倉庫や網づくろいの姿はあるが景観は漁村ではなく、住宅街の一角。
　広い運河のような水路のむこうは三井系の装置産業のコンビナート群、こちらも旧堤防の先が埋め立てられている。漁港のさらに北に「砂浜」が残されていて子どもが遊んでいた。大阪府北限の砂浜か？
　高師浜駅はステンドグラスの入った様式建築。バドミントン時代は見ていない、最後の諏訪ノ森駅も・・・高野線にもあるし南海の洋風駅舎はどこから来ているのでしょう。海浜保養地のイメージなのでしょうか？芦田川を渡る手前に鉄道関連施設があり、狭い敷地で不思議だったが、地図では南海の「鉄道研修所」になっている。
　浜寺公園に入り込む。黒松の大木ばかりで「白砂青松」のイメージはある。戦後は米軍キャンプであった。保養地名残の「新東洋」も見かけず・・・・家族連れと年寄りには良い空間だ。

　旧二十六号線から東の住宅地、浜寺昭和町も高級住宅地、古い洋館やら、和式邸宅、独自設計の新しい住宅など豊富。
　旧国道東側でも建て売り住宅とは一線を画した新住宅群があり、邸宅か小工場跡地のミニ開発に違いないのだが、ロータリーをとって小公園にし、自動車が回遊できるようにクルドサックにしている。袋小路のイメージではない。住宅スタイルにも流行がある。
　現今では玄関を隠さない、防犯上の理由なのだろう。バラの世話にいそしむお宅もあってリッチ！浜寺昭和町の外れには焼き場の建物が残る墓地があった。

そのあたりから、紀州街道に入ったのだが、帰宅後地図を見ると阪堺線の走る大通りの南端から紀州街道が続いているが浜寺、羽衣あたりでは消えているようだ。私は地図に線を入れていない。このあたり、三原さんに教えてもらいたいところだ。

諏訪ノ森駅で解散！

【伊藤和雄 会員】

音に聞く　高師浜の　あだ波は
　　かけじや袖の　ぬれもこそすれ

小倉百人一首の７２番目の歌、詠み人は祐子内親王家紀伊、平安時代後期（１１世紀後半）の女流歌人。この歌の「高師浜」の名残が、伊藤さんのレポートにもある砂浜ということになります。有名な歌ですから詳しい解釈は検索すればすぐに出てくるのでさて措いて、初句の「音に聞く」とは「名高い評判の」というほどの意味で、この宮家にお仕えの紀伊さんは、おそらく高師浜に来られたことなどないのです。
高師浜は、この歌によって今日まで伝わる歌枕となりましたが、そのためにあの砂浜が残されているのでしょうか。歌には「波（相手の男の浮気心）が高い」とありますが、別に浜の景色が素晴らしいとは詠まれていません。
もちろん近代まで、この地は白砂青松の浜辺であったのでしょう。大久保利通の「惜松」の本歌取り（と言うより狂歌だと思いますが）も当時（明治６年）の景観を思わせるものです。

音に聞く　高師浜の　はま松も
　　世のあだ浪は　のがれざりけり

和歌浦や、最近では、鞆の浦の景観問題の報道に接するたびに、いわゆる「歴史的景観」とは何なのかと考えるのですが、高師浜のような歌枕の歴史と現況は、景観論議に色々示唆を含んでいるのではないでしょうか。

つい、かた苦しいことを書いてしまいましたが、昨日の浜辺は、季節柄ハマヒルガオも咲いていて、佳い風景に遭うことができました。次のウォッチングは阪神間（尼崎・西宮・芦屋）の海沿いでどうでしょうか？

【鷲原知良 会員】

【参加者】伊藤・鷲原

編集後記 Editors' Note

とりわけ暑かったこの夏。融けるにまかせていた体は、冷蔵庫にしまい忘れたマーガリンのように、なお淀みが残っているかのようですが、おかげさまで企画も立ち、何とか会報をお届けすることができました。都文研もまた、なかなか簡単にはくたばらないようです。イベント目白押しのこの時節ですが、あっという間に過ぎ去る秋の一日を、ぜひウォッチングに充ててみましょう。復活したホームページも、ご愛顧のほどお願いいたします。

◆編集・発行　大阪都市文化研究会事務局
〒552-0003 大阪市港区磯路３丁目 11-17
TEL&FAX :06-6572-7562　PHS:070-5042-8538
E-Mail　:PXA01331@nifty.ne.jp
郵便振替：00950-5-115063
『大阪都市文化研究会』

メーリングリスト: tobunken@e-utopie.org
ホームページ: http://tobunken.jimdo.com/

◆発行年月日 2010 年 10 月 8 日(原則毎月発行)